腎移植患児の心理的変化

小児腎疾患の長期管理における運動・食事・社会心理に関する研究
長期管理に由来する社会心理問題について

乾　拓郎

腎移植患児、家族に対しアンケートにて病名告知時、入院時、透析時、腎移植前後、現在において患児両親に精神的に及ぼす影響について調査した。透析期間は精神的に及ぼす影響が最も強く、腎移植直後は精神的な安堵感が最も強かった。しかしながら腎移植後検査所見が安定している場合でも再発、拒絶反応に対して恐怖感、心配感が依然強く精神的に及ぼしていた。

腎移植児、心理的変化

【はじめに】

腎移植は腎不全の根治療法であるとされているが拒絶反応に対する療法はまだまだ完全なものには至っていない。今回我々は腎移植の患児、両親に与える精神的影響について検討した。

【対象および方法】

対象は８名の腎移植患児(男５名、女３名)と両親に対し腎不全時期、透析時期、腎移植前後時期における精神的不安についてアンケート調査をおこなった。(表1)。

【結果】

1)病名告知時の心境(患児)

病名告知は母親、医師からうけたとし、ほとんどが、自分の置かれた状況を把握し、治療に頑張るという心境であった。(図１)。

2)入院時の心境(親)

医師に病名告知された時、治療を任せるしかないと思い、患児には全員母親から病名を告知されており、患児へは強制的にあるいはなだめすかして納得させていた(図２)。

3)入院後の家族変化

患児の受けとめとしては両親は優しくなった、兄弟間が仲よくなったとし、両親はわがままに扱ったとしている半面、夫婦、患児両親との会話が増えたとしている(図３)。

4)透析期間での不安

患児は透析時間、透析の副作用、シャント部の保護を、両親は腎移植を早期に希望、身体の発達希望などであった(図４)。

5)腎移植直前での不安

患児、両親ともやっと健康人と同様の生活ができるようになったと安堵感をもつ一方、成功率、拒絶反応などに不安を持っていた(図５)。

6)腎移植後は現在または将来への不安は患児、両親とも拒絶反応、再発あるいは移植腎での生存率、就職などに不安を持っていた(図６)。

7)親からみた腎移植児の性格変化をみると透析期間において暗くなった、がまん強くなったなど患児に大きなストレスを与えており腎移植により本来の患児の性格にもどり、明るさを取り戻していた(図７)。

8)入院をすると併設された養護学校に通学している。患児は養護学校に転校したことに良い印象をもっていることは、学力に合わせ理解させてくれる、同様な疾患であり、お互い理解しあえる、制服がないということなどをあげ、悪い印象は補習が多い、外泊時友人と話題が合わないなどをあげていた。一方両親は養護学校という名称に対しイメージが悪く、

国立療養所三重病院小児科

病気の子供であるというレッテル、普通校にいる時より学力が低下するのではないかと考えることが多く、教育内容と名称とのギャップが大きく存在すると思われる(図８)。

【考察】

今回我々は腎移植患者８名に対し病名告知時、腎不全時、腎移植前後の心境について患児、両親にアンケート調査をおこなった。どの症例も病名告知時においてとまどいとあきらめをみせ、透析時には不安の極致となり、腎移植への希望を持ち腎移植日が決定後安堵感へと変化していた。腎移植により、喜びの絶頂となるが、腎移植後は拒絶反応に対する恐怖感が徐々に増大してくる。腎移植は腎不全の根治療法であると言われ、最近では多くの症例に行なわれているが各時病期により患児家族に精神的に及ぼす影響は多大である。当院では昭和51年より小児慢性病棟を開設し、親子分離をさせ経過観察を行なっている。親子分離のための精神的影響が出現しないよう看護婦などは受け持ち制にし、個人指導、家族との連絡ノートなどを使用し、学校教師とは個別記録で連携し、スタッフ間ではケースカンファレンスなどをおこない薬物治療、患児を取り巻く家庭環境、教育などについて検討している。現在入院している慢性疾患児に対し田研式親子関係テストを施行した。腎疾患児も他疾患児と同様、Ｂ類(情緒不安定積極型)E類(情緒不安定消極型)のいわゆる情緒不安定タイプが健康群と比較して出現頻度が高かった(図９)。このことはもとの疾患のためなのか、親子を分離しているためなのかははっきりしないが、疾患に罹患した場合、患児、家族に精神的に多くの影響をおよぼすものと思われる。当院では腎外来に病棟看護婦も加わり患児、家族の精神的な悩み、友人関係、学校生活についても情報を収集し精神的援助を行なっている。特に腎移植児については児童指導員に依頼し、定期的にカウンセリングを行なっている。今後も腎疾患児が腎臓病を持ちつつ明るく希望を持ちつつ歩んでいけれるよう最大の援助ができるよう努力していきたい。

表1　症　　例

氏名	生年月日	現年令	疾患名	発症年令	透析年令	移植年令	ドナー
A.O.	S.49.2.16	16	MPGN	7	10	12	母
K.S.	S.46.1.21	19	腎形成不全	12	14	15	母
K.D.	S.51.12.8	14	腎形成不全	4	9	10	母
T.K.	S.45.5.7	20	慢性腎炎	2	15	17	父
H.O.	S.51.8.12	14	MPGN	8	10	11	父
A.H.	S.49.5.8	16	FGS	9	10	12	叔母
N.N.	S.51.11.2	14	腎形成不全	5		13	母
U.K.	S.59.2.26	7	FGS	5	5	5	母

MPGN　膜性増殖性糸球体腎炎　　FGS　巣状糸球体硬化症

図1　病名告知時の心境（患児）

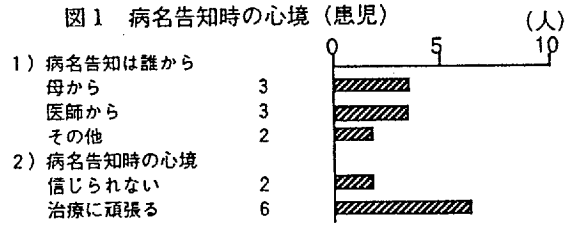


図2　入院後の家族の変化（親）

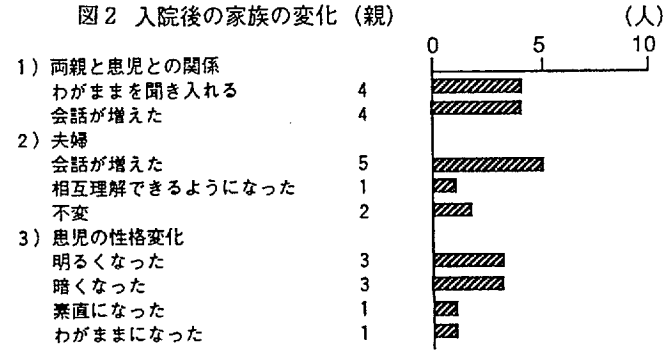


図3　入院後の家族変化（患児）

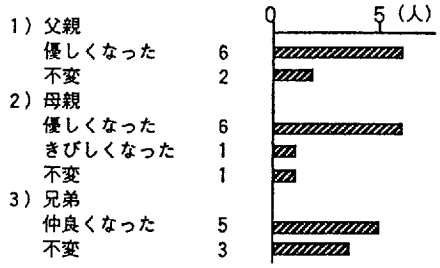


図4　透析期間の不安

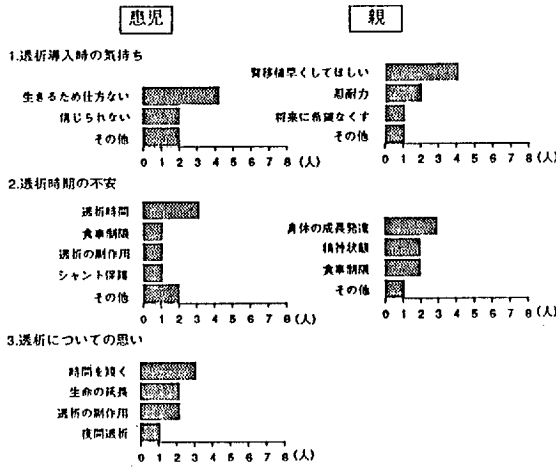


図5　腎移植直前の不安

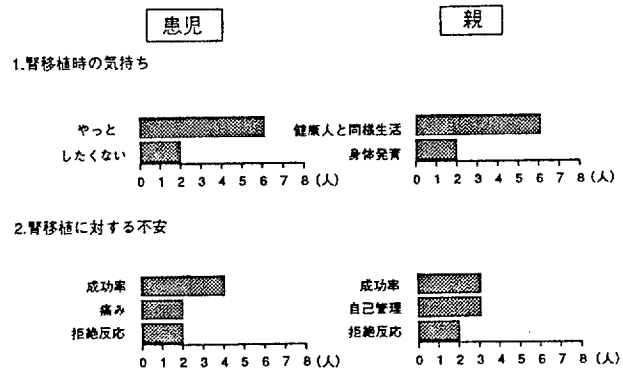


図6　現在、将来の不安

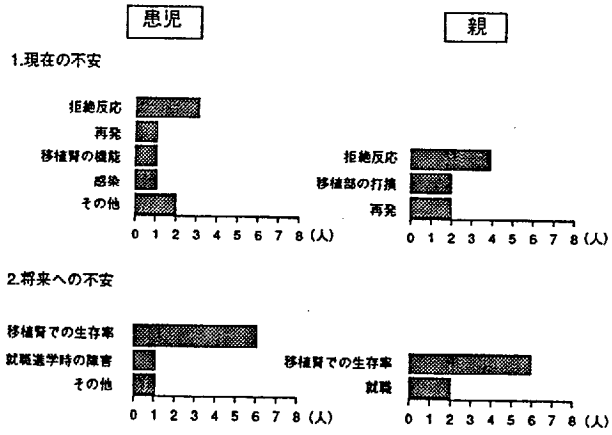
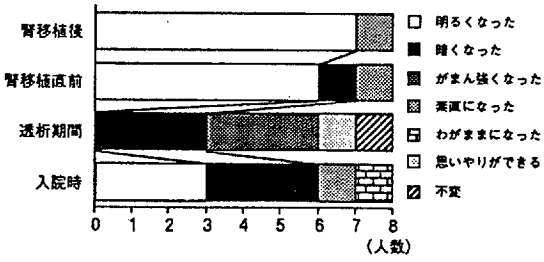


図7　親からみた腎移植児の性格変化



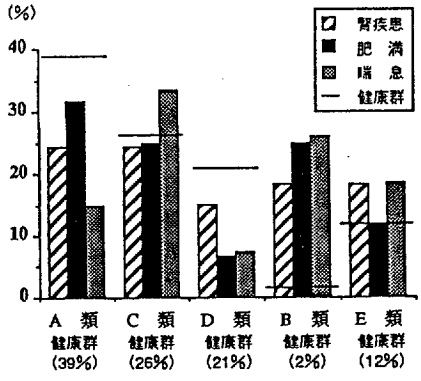
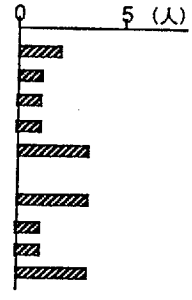


図9　小学生の疾患別類型分布

図8　養護学校について（患児）



1）転校して良かったこと

理解するまで教えてくれる	2
仲間が同様の疾患で理解しあえる	1
授業が楽しい	1
制服が決まっていない	1
その他	3

2）嫌だったこと

補習が多い	3
日記を毎日つけること	1
外泊時友人と話が合わない	1
その他	3

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

腎移植患児、家族に対しアンケートにて病名告知時、入院時、透析時、腎移植前後、現在において患児両親に精神的に及ぼす影響について調査した。透析期間は精神的に及ぼす影響が最も強く、腎移植直後は精神的な安堵感が最も強かった。しかしながら腎移植後検査所見が安定している場合でも再発、拒絶反応に対して恐怖感、心配感が依然強く精神的に及ぼしていた。